

# 週刊 武四郎

第14号

2018年(平成30年)7月11日(水)  
発行・松阪市

●毎月第二週は、  
松浦武四郎と北海道に  
ついてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

## カイの国

今年から七月十七日は、〈北海道みんなの日〉に制定されることになりました。この日は、武四郎さんが、蝦夷地に代わる国名として、『日高見道』、〈北加伊道』、〈海北道』、〈海島道』、〈東北道』、〈千島道』の六つを明治新政府に提案した日です。この中から〈北加伊道』の〈加伊』の字を〈海』に変えて、現在の〈北海道』という名前になりました。

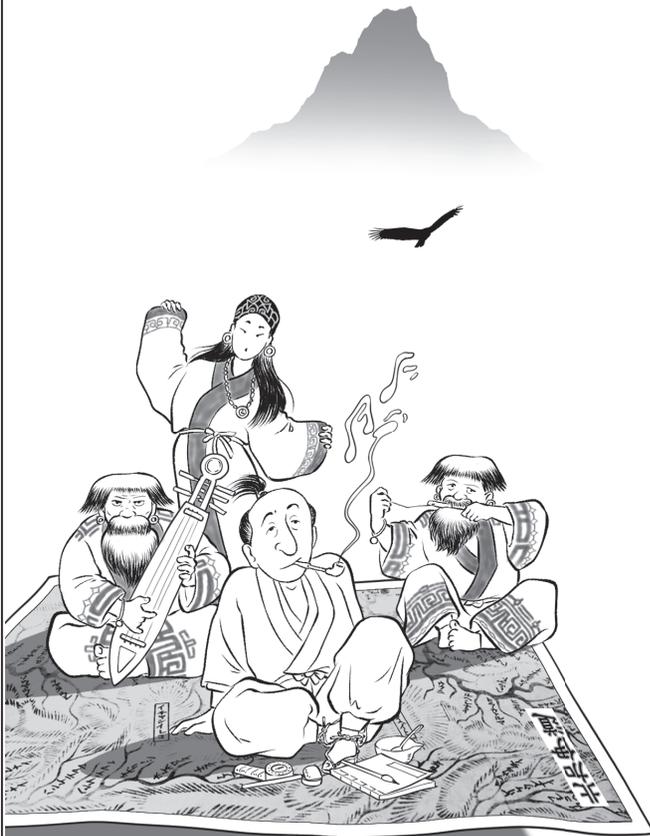
さて、この〈加伊』とはどういう意味でしょうか？(加伊は変体仮名で、今でいう〈カイ』のこと)。武四郎さんは、天塩川流域を探索している時に、あるアイヌの村の長老に、「カイとは古いアイヌ語で、この土地に生まれた者」と教えられます。それで、〈北』の〈カイ』の〈道』。ところが明治時代半ばに、有名な言語学者の金田一京助先生

は、この武四郎の解釈を厳しく非難しました。

「アイヌの言葉に、『カイナー』、『カイナー』という語はあるが、『カイ』という言葉はない」  
確かに現代のアイヌ語にも『カイ』という語はないそうです。ただ……このアイヌの住む土地を大陸の人々は古くから『クイ』

とか『クギ』と呼んでいました。ちょっと『カイ』と似ていますね。さらに武四郎さんは鎌倉時代の古い文献に、〈蝦夷』という字を〈カイ』と読んでいる事例を書き残しています。

残念ながらびっくりました。おそろしく遙か昔、アイヌの人々の住んでいる土地は周辺からも……そして自らも〈カイ』と呼んだり呼ばれたりしていたのではないのでしょうか。武四郎さんは、その〈カイ』が、東海道などの〈海』ではなくて、昔から〈カイ』であることを……私たちに記録として残してくれた人、北海道の本当の名前の意味を後世に伝えようとした人ともいえるのです。



松浦武四郎 (1818 ~ 1888)

三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地(今の北海道)を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として(北海道)のもととなる(北加伊道)を含む6案を政府に提案したことから(北海道の名付け親)と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』(河治和香著)が、小学館より好評発売中!

